

## 正誤表(2019.4.15 更新)

2019 年度合格目標版 中小企業診断士一次試験 一発合格まとめシート 前編(企業経営理論、財務・会計、運営管理)におきまして、以下の箇所にて誤りがございました。お詫びして訂正させていただきます。

### 第1章:中小企業診断士試験とは

該当ページ	該当箇所	正	誤
11	中小企業診断士試験スケジュール(平成 30 年度試験の場合)	平成 30 年(表中の年度全て) 年度以降の日時に修正はございません。	平成 29 年

### 第2章:企業経営理論

該当ページ	該当箇所	正	誤
31	PPM 下から 10 行目	すぐさま <b>撤退</b> の判断を行う必要はありません。	すぐさま <b>徹底</b> の判断を行う必要はありません。
68	すぐやる！過去問コーナー	 こちらから正しいデータをダウンロードできます。 ※ダウンロード特典は修正済みです	こちらから正しいデータをダウンロードできます。 (H25-4 として H25-9 が掲載されています)
72	内容理論 上から 17 行目	ハーズバーグの動機付け・ <b>衛生理論</b>	ハーズバーグの動機付け・ <b>衛星理論</b>
90	解雇 下から 1 行目	ただし、天災等のやむを得ない理由で事業が <b>継続できなくなり</b>	ただし、天災等のやむを得ない理由で事業が <b>継続できなくなったり</b>
120	価格設定方法 上から 7 行目	<b>需要</b> 志向の価格設定方法としては、	<b>重要</b> 志向の価格設定方法としては、

### 第3章:財務・会計

該当ページ	該当箇所	正	誤
137	すぐやる！過去問コーナー	レベル 1 H25-7, H24-12 ※ダウンロード特典は修正済みです	レベル 1 H25-7, H25-12
139	仕分けの例の表	仕訳の例 借方 金額 貸方 金額	仕訳の例 <b>貸方</b> 金額 貸方 金額
140	減価償却費 下から 7~8 行目	耐用年数が 5 年の機械設備の <b>減価償却費</b> は	耐用年数は 5 年の機械設備の <b>耐用年数</b> は
142	すぐやる！過去問コーナー	レベル 2 H27-5, H26-2, H24-1 ※ダウンロード特典は修正済みです	レベル 2 H27-5, H26-2, H24-2
145	転記 一番下の行	左側( <b>借方</b> )に「仕入」と記載されたもの	左側(貸方)に「仕入」と記載されたもの
145	取引から B/S, P/L ができるまでの流れ 上から 4 行目	それを元に期末に <b>精算表</b> を作成し、	それを元に期末に <b>清算表</b> を作成し、
146	修正 上から 3 行目 経過勘定の修正 上から 3 行目	1 つの表にまとめた <b>精算表</b> そのため、 <b>精算表</b> を作成する際に	1 つの表にまとめた <b>清算表</b> そのため、 <b>清算表</b> を作成する際に
152	②仕入支出	+ 前払金増加額	- 前払金増加額
153	②仕入支出 下から 3 行目	仕入支出 = 売上原価 + 棚卸資産増加額 - 仕入債務増加額 + 前払金増加額	仕入支出 = 売上原価 + 棚卸資産増加額 - 仕入債務増加額 - 前払金増加額

該当ページ	該当箇所	正	誤
160	すぐやる！過去問コーナー	レベル1 H30-10	レベル1 H30-11
164	長期安全性 上から6行目	固定比率が <b>低い</b> ということは、建物や設備の <b>ように</b>	固定比率が <b>高い</b> ということは、建物や設備の <b>ように</b>
164	長期安全性 上から8行目	<b>固定</b> 比率は、固定資産が	<b>負債</b> 比率は、固定資産が
166	成長性	成長率=(当期の指標-前期の指標)/ <b>前期の指標</b>	成長率=当期の指標/ <b>前期の指標</b>
166	その他の安全性の指標	<b>インタレスト・カバレッジ・レシオ</b> ※ダウンロード特典は修正済みです	<b>インスタント・カバレッジ・レシオ</b>
167	資本利益率 上から10行目	自己資本 <b>利益率</b> とはつまり、投資に対する稼いだリターンの原資の比率を	自己資本 <b>比率</b> とはつまり、投資に対する稼いだリターンの原資の比率を
169	下から2,4,6,7行目	<b>インタレスト・カバレッジ・レシオ</b>	<b>インスタント・カバレッジ・レシオ</b>
177	連立方程式タイプ 下から8~10行目	$S_0/S=0.75$ (下から10行目) $S_0/16,000=0.75$ (下から8行目)	$(S-S_0)/S=0.75$ (下から10行目) $(16,000-S_0)/16,000=0.75$ (下から8行目)
178	費用差異分析の表 横軸の注釈	<b>販売数量</b> ※ダウンロード特典は修正済みです	<b>生産数量</b>
182 184	福利現価係数と年金現価係数	複利 <b>現価</b> 係数 年金 <b>現価</b> 係数 ※ダウンロード特典は修正済みです	複利 <b>原価</b> 係数 年金 <b>原価</b> 係数
201	安全性の指標 上から6行目	企業を持つ純資産の方が株価よりも <b>高い</b>	企業を持つ純資産の方が株価よりも <b>安い</b>
209 211	リスクとリターンの計算の例の表	$0.3 \times 10$ $+0.5 \times 8$ $+0.2 \times 5=8$ よって8%	<b>表記の乱れ</b>
210	証券投資論 下から6行目	共分散は $2 \times 11 \times 0.3 + 0 \times (-1) \times 0.5 + (-3) \times (-14) \times 0.2 = 15$ となります。	共分散は $2 \times 11 \times 0.3 + 0 \times 1 \times 0.5 + (-3) \times (-14) \times 0.2 = 15$ となります。
211	効率的ポートフォリオ 下から4行目	「く」の字型のグラフとなります。	<b>逆</b> 「く」の字型のグラフとなります。
219	先渡取引と先物取引 下から3行目	差金決済を行う <b>先物</b> 取引はデリバティブとして扱われますが、 <b>現物の受け渡しを条件としている大半</b> の先物取引は、	差金決済を行う <b>先渡</b> 取引はデリバティブとして扱われますが、 <b>先物取引の大半が条件としている現物の受け渡しが決まっている先渡</b> 取引は、
224	個別原価計算 表中 前月繰越 合計欄	<b>5,000</b>	<b>500</b>
226	総合原価計算	※修正版は別紙をご参照ください	<b>月初仕掛品の加工進捗度 0.6</b>

該当ページ	該当箇所	正	誤
272	作業工程分析の表	作業 移動 手待ち 検査 ※ダウンロード特典は修正済みです	加工 運搬 貯蔵 検査
277	動作研究	作業系列には、人・機械分析と組作業分析があり	作業系列には、人・機械分析と機械、組作業分析があり
316	ISM の体系	プラノグラム ※ダウンロード特典は修正済みです	プロノグラム
314	在庫高予算 下から 1 行目	= 年間平均在庫高 + 当月売上高予算 - 一月間平均売上高予算	= 年間平均在庫高 + 当月売上高予算
316	マーケット・バスケット分析 信頼度	信頼度 = $\frac{A \text{ と } B \text{ 同時購入の購買数}}{A \text{ の購買数}}$ ※ダウンロード特典は修正済みです	支持度 = $\frac{A \text{ と } B \text{ 同時購入の購買数}}{A \text{ の購買数}}$
323	エシェロン在庫 下から 2 行目	メーカーは 30+20+10+10+5=75 で 75	メーカーは 30+20+10+10+5=75 で 80
326	RFID 下から 6 行目	RFID は Radio Frequency Identification の略で	RFID は Radio Detection Identification の略で
327	商品識別コードの流通標準	8桁の短縮版 EAN(JAN)コードは8桁の前に 000000 を加えた 14 桁で表します	8桁の短縮版 EAN(JAN)コードは8桁の前に 00000 を加えた 14 桁で表します

次に、加工費を求めます。

加工費は進捗に応じて投入されます。そのため、当月に加工した製品の数は、当月完成分と月末仕掛品に加工進捗度を乗じた数になります。今回の例の場合、当月完成分が 600 単位、月末仕掛品が 200 単位、加工進捗度が 0.5 なので、当月加工した製品の数は  $200 \times 0.5 = 100$  単位となります。また、月初仕掛品は加工進捗度が 0.6 のものが 100 単位あるので、加工すべき残りの製品の数は、 $100 \times 0.6 = 60$  単位となります。そのため、当月に加工を行った製品の数は  $600 + 100 - 60 = 640$  単位となります。

この結果を用いて、加工費の単価を求めると、月初仕掛品の単価は  $240/60 = 4$  千円、当期投入分の単価は  $3200/640 = 5$  千円となります。先入先出法ですので、当月完成品のうち 60 単位は月初仕掛品の分、540 単位は当月投入分で、当月完成品の加工費は  $4 \text{ 千円} \times 60 + 5 \text{ 千円} \times 540 = 2,940$  千円、月末仕掛品の加工費は当月投入の 100 単位分で、 $5 \text{ 千円} \times 100 = 500$  千円となります。

以上より当月完成品原価は  $1,700 + 2,940 = 4,640$  千円、月末仕掛品原価は  $600 + 500 = 1,100$  千円となります。

数量データ		原価データ	
月初仕掛品	100 単位 (加工進捗度 0.6)	月初仕掛品	直接材料費 200 千円
当月投入	700 単位		加工費 240 千円
当月完成品	600 単位	当月製造費用	直接材料費 2,100 千円
月末仕掛品	200 単位 (加工進捗度 0.5)		加工費 3,200 千円

直接材料費

$200/100 = @ 2 \text{ 千円}$	月初仕掛品 100 単位	→	100 単位	→	当月完成品	@ 2 千円 $\times$ 100 = 200 千円
$2,100/700 = @ 3 \text{ 千円}$	当月投入 700 単位	→	500 単位	→	600 単位	@ 3 千円 $\times$ 500 = 1,500 千円
		→		→	月末仕掛品 200 単位	@ 3 千円 $\times$ 200 = 600 千円

} 1,700 千円

加工費

$240/60 = @ 4 \text{ 千円}$	月初仕掛品 60 単位 ( $100 \times 0.6 = 60$ )	→	60 単位	→	当月完成品	@ 4 千円 $\times$ 60 = 240 千円
$3,200/640 = @ 5 \text{ 千円}$	当月投入 640 単位 ( $600 + 100 - 60 = 640$ )	→	540 単位	→	600 単位	@ 5 千円 $\times$ 540 = 2,700 千円
		→		→	月末仕掛品 100 単位 ( $200 \times 0.5 = 100$ )	@ 5 千円 $\times$ 100 = 500 千円

} 2,940 千円

原価計算の問題は、計算自体はそれほど難しくないので、上記の解説を見てわかるように工程が多く、計算に時間がかかります。そのため、本試験のときの優先順位としては、先に工程が少なくすぐ解ける問題を解いた後に回した方が焦ることなく、時間を有効に使えますので、解く順番を工夫するようにしましょう。